

● 赤色タイプ

■ アカマルハナバチ

◆ 低地～山地 ◆ 中舌



全身赤みの強いオレンジ色で、お尻が黒く、コントラストが美しい。オスは赤みが薄いオレンジ色で、お尻の黒は目立たない。

【概要】 低地から高山まで広く分布。出現は早く7月に多く見られる。

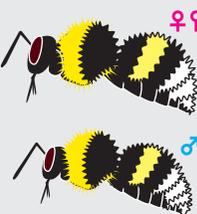
【高山帯】 雪潤草原から高根ヶ原のようなきびしい風衝草原まで現れる。ツガザクラ類やエゾツツジ、コケモモなどのツツジ科でよく見られる。



● 外来タイプ

■ セイヨウオオマルハナバチ

◆ 低地 ◆ 短舌



お尻が白いところを確認できれば見まちがうことはない。また、黒地にレモンイエローの帯がよく目立つ。雌雄の外見の差は小さく、区別は難しい。

【概要】 開けた環境を好み、農村部や大きな公園、河川沿いに多い。春の出現時期は早く、秋も一番遅くまで活動する。

【高山帯】 低地で分布を広げているが、高山帯への侵入も確認されるようになってきている。雪田群落のツガザクラ類を非常に好む。チングルマ、エゾオヤマリンドウ、コガネグクなどでも見ついている



※セイヨウオオマルハナバチは、トマトなどの受粉を助けるために導入されましたが、野外に逃げたものが繁殖し、在来種への悪影響などが心配されています。外来生物法の「特定外来生物」に指定され、生きのまま持ち運ぶことなどが禁止されています。

○ マルハナバチと似ている訪花昆虫

ミツバチや小型ハナバチ類は、マルハナバチより毛が少なく、体が細い。



セイヨウミツバチ ヒゲナガハナバチ類 ヒメハナバチ類

マルハナバチを襲うことも。



コガタスズメバチ



ベッコウハナアブ類

ハナアブ類は眼が大きく、翅は2枚。動きがゆっくり。



ハラブトハナアブ類



北海道マルハナバチ図鑑 高山編

高山植物には、植物体の割りに大きな花やユニークな形の花を咲かせるものがあります。こうした高山植物の花のパートナーになっているのがマルハナバチです。もともと寒冷な環境に適応しているマルハナバチは、高山帯でも活発に活動しています。高山帯で活動するのは、北海道の12種類のマルハナバチのうち6種類です。

これらは、下の表のように、中舌長の長さの違いから3タイプに分けられます。次ページ以降では、毛色の模様注目しながら、見分け方を紹介します。

※写真等の記号は、♀:女王バチ ♀:働きバチ ♂:オスバチ

北海道の高山帯で見られるマルハナバチ一覧 *Bombus*

ナガマルハナバチ亜属

- ◆ 長舌タイプ ○ エゾナガマルハナバチ (ナガマル) *B. yezoensis* 01, 20, 11 ◆ 山地
- エゾトラマルハナバチ (トラマル) *B. diversus tersatus* 02, 28, 14 ◆ 低地～山地

コマルハナバチ亜属

- ◆ 中舌タイプ ● エゾヒメマルハナバチ (ヒメマル) *B. beaticola moshkarareppus* 08, 76, 28 ◆ 山地
- アカマルハナバチ (アカマル) *B. hypnorum koropokkrus* 09, 80, 26 ◆ 低地～山地

オオマルハナバチ亜属

- ◆ 短舌タイプ ● エゾオオマルハナバチ (オオマル) *B. hypocrita sapporoensis* 10, 88, 32 ◆ 低地～山地
- セイヨウオオマルハナバチ (セイヨウ) *B. terrestris* 12, 100, 36 ◆ 低地 (外来種)

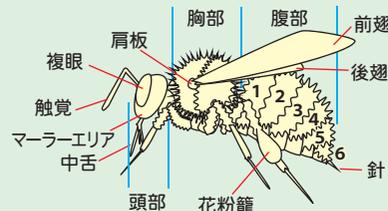
※学名の後ろの数字は、北海道内の種の通し番号(さつぼろ自然調査館(2015)参照)、全国図鑑の掲載ページ(木野田ほか(2013)日本産マルハナバチ図鑑、北海道大学出版会、鷺谷ほか(1997)マルハナバチ・ハンドブック、文一総合出版)



・中舌と顔の長さは、蜜を採る花の長さに関係があり、分類の基準となっています。長舌タイプは、筒状の長い花から蜜を採ることができます。



体の構造と名称

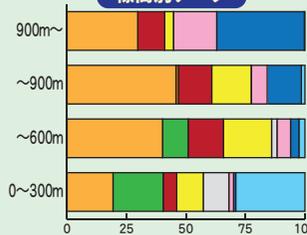


オスは腹部が7節と多く、6節の♀より長く見える。先は丸く、針は持たない。触覚も13節と多い(♀は12節)。

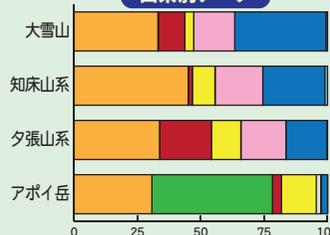
標高別・地域別によく見られる種類

実際の観察データを集計した結果から、高山帯でよく見られる種類がおおよそ分かります。(丹羽の観察データ 2008-2015 年に基づく)

標高別データ



山系別データ



○ オオマル ● アカマル □ ハイイロ □ ナガマル □ セイヨウ
● コマル ● トラマル・ミヤマ・シュレンク ● ヒメマル

三色タイプ

■エゾオオマルハナバチ

◆低地～山地 ◆短舌



黒と白の縞模様で、お尻はオレンジ色。働きバチの腹部の毛は寝た感じになっている。オスは全体に黄色味がかって、トーンがはっきりしない。

【概要】開けた環境を好み、標高によらず多く見られる。

【高山帯】雪潤草原から風衝草原まで現れるが、特に雪田群落のツガザクラ類を非常に好む。



本州以南は別亜種

■エツヒメマルハナバチ(女王)

◆山地 ◆中舌



オオマルによく似るが、胸部と腹部のつなぎ目が白っぽい。ハイマツ帯のクロウスゴやココウラクツツジなどで見つかることが多い。



平地で見られるその他のマルハナバチ

■エゾコマルハナバチ

◆中舌



■ハイロマルハナバチ(類)

◆中舌



■ミヤママルハナバチ

◆中舌

(南西部)



■シュレンクマルハナバチ

◆中舌 (道央～道東)



■ノサップマルハナバチ

◆短舌

(根室地方)



灰色タイプ

■エツヒメマルハナバチ(働きバチ)

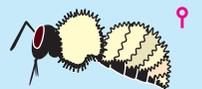
◆山地 ◆6月下～8月下 ◆中舌



全身淡い灰色のため、顔の黒さが際立ってみえる。小さい。

【概要】全道的に分布するが、山地から高山帯に限られる。高山帯では多い。根雪が消えるとすぐに出現し、高山では8月いっぱいまで活動する。

【高山帯】雪潤草原(高茎草原)のチシマアザミに多いが、ナガバキアザミやツガザクラ類も好む。



本州は別亜種

黄色タイプ

■エツヒメマルハナバチ(オス)

◆山地 ◆中舌



全身うす黄色で小さい。個体によって色の濃淡の差があり、薄い個体は働きバチと区別が難しい。



■エゾナガマルハナバチ

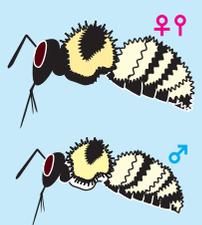
◆山地 ◆長舌



黄色味を帯びた灰色に、黒いしまが入る。顔がもっとも長い種。お尻の部分が白っぽい個体もある。稀に小さな働きバチは、ヒメマルの働きバチによく似ていることがある。

【概要】全道的に分布するが、山地から高山帯に限られる。活動時期は遅く、9月いっぱい飛ぶ姿を見かける。

【高山帯】雪潤草原(高茎草原)のチシマアザミやトリカブト類に多く見られる。イワブクロやウコンウツギも本種が利用する。



北海道のみ

■エゾトラマルハナバチ

◆低地～山地 ◆長舌



全身薄いオレンジ色。女王バチは大型。顔が長く、舌も長い。雌雄の外見の差は小さく、区別は難しい。

【概要】低地から亜高山まで分布するが、高山帯では稀である。

【高山帯】亜高山帯に近い高茎草本群落のチシマアザミや、雪田群落のツガザクラ類で見られることがある。



本州は別亜種
利尻・礼文は本州型